

スコール・マスターズ通信

第87号
2019. 6. 15発行

スコール・マスターズ東海地区人生学講座

開催日時：令和元年6月9日（日）9時半～11時半
講演テーマ：父親として、夫としてどう生きるか
会場：愛知県名古屋ウインクあいち1303号室
参加人数：61名(内、男性30、殆ど夫婦でのご参加)



1. 永池会長ご講話内容

家庭においては夫婦の関係が重要であり良い関係を築く事が基本である。

夫からすると妻は環境であり、同時に妻からみても夫は環境である。

一端結婚したら相手は環境であると認識して環境である相手に上手に適応していく事が大事である。

人間は地球環境に適応しなければ生きていけない。しかし地球環境を変える事はできない。

夫婦関係も環境であるが、こちらの環境は適応の仕方が上手であれば変わっていくものである。

具体的な適応方法としては、相手の癖・考え方の傾向・習慣をよく観察して上手に適応していく事である。

良い夫婦環境が生まれれば良い家庭になる。

2. 永池会長への質問と会長からのご回答内容

(全21件中主要10件のみ抽出)

質問1：父親として子供には厳しく接するべきなのか？

回答：無理に父親だからとかこだわらなくて良い。子供に対してはお母さんの言う事を聞きなさいと云う程度が良い。

質問2：男の子と父親の係わり方で、特に子供の進路について

回答：子供のどの学科の成績が良いのか知る事。得意な分野を理解して子供の長所を発見する事。さりげなく長所を褒めてあげる。長い目で見てあげる。子供が自分の長所を自覚する事が進路を決める上では大事である。

質問3：長女の不登校について

回答：子供と云うのは親の潜在意識を受け継いでいるものである。家庭において朝起きた時に自然に挨拶をする家庭にしていく事。親が生活の中でチャレンジするものを一つでも持つ事が大事。親がチャレンジするようになれば子供も真似ていく。

質問4：人生の指針について

回答：どういう世の中になっても常に前向きな気持ちをもって生きる事。プラス指向の意識を持って生きる。夫婦の関係を良くする事。何でも話せる夫婦を目指す。直ぐには無理であっても心がける事が大事。

質問5：大人の引きこもりと家庭内暴力について

回答：親の厳しいしつけや要求は子供にとってはイジメになってしまう。大事な事は子供の長所を褒めること。子供のこころが見える親になること。最近の事件については、会話が出来る人が一人でもいるかいないかがポイント。事件を起こす場合にはそういう人がいない事が多い。

質問6：最近の若者の覇気の無さを嘆く

回答：後輩の良いところを見つけて褒めてあげることが大事。長所を的確に把握して助言して上げるようにする。

質問7：若者の離職について

回答：職場で人間的に尊敬できる人がいれば、その人に相談するか、その人を見本としていく。上司は尊敬できる上司になる事。



質問8：やる気がなく宿題もしない子供について

回答：本人が自覚してやり出すようになるのを待つしかない。親が子供に要求しても反発されるだけ。子供の長所をきちんと把握している親であるのかどうかポイント。

質問9：職場での自分の将来について不安である

回答：自分がやるべき事をきちんとやっていくこと。そうすれば上司が認めてくれる。

質問10：職場での上司との関係

回答：上司にも色々なタイプの人がいる。どういう人なのか？上司がどんな人柄・ものさし・考え方をしているのかを研究してその人に合った仕事の仕方をする。上司に認めてもらう事が職場では必要である。上司から合格点をもらう事を考えて仕事内容を見直していくこと。(今野洋一)

山梨市の双葉幼稚園での 小俣顧問講演会

開催日時：令和元年6月2日（日）11時半～12時半

講演テーマ：親として生きる

会場：山梨県山梨市 学校法人双葉幼稚園

参加人数：120名（内、男性100名程）一世代家族が殆どで夫はサラリーマン・勤め人、共稼ぎ家庭は少数。

幼稚園の日曜参観として父親対象に講演会を開催するにあたって日頃よりスコール誌を通じてスコールの理念に共感を持っておられる石原園長よりスコール協会に講師派遣の要請があった。父親対象の講演会との事なので小俣顧問が講師となった。

参加父兄120名中8割の父親100名がほとんど最後まで熱心に講演を聞かれていた。

小俣顧問の講演内容は、次の通り。

**1. 子育ては夫婦で行うもの。**

子育てにおける夫の「何か手伝おうか？」と云う言葉に妻は怒る。

子供の問題は親の生き方による。従って親自身の教育・学習こそが家庭教育である。

2. 家庭に母親2人は要らない。

子供と常時密着する母親は1人で良い。父親は子供と母親のふれあいを支える役目。

幼いころの愛情不足が大人になって問題を起こす原因である。

3. 家庭は社会の根である。

社会の最小単位が家庭であり、家庭がスタートであり大事な場所である。

4. 母親はスキンシップと肌のぬくもりを通して生きるパワーを子供に与える。

父親は子供が初めて接する他人である。それ故に法と正義を示すのが父親である。

5. 父親の役割は大きく三つある。

一つは「父親は人生の指針を示す。」

父親は家庭における名ディレクターであるべき。

子供の長所を認めて伸ばしてあげる事。子供に夢を持たせる事。

二つ目は「家庭の危機管理」。これこそが父親の本来の出番・役割である。

危機を乗り越える力が必要である。

三つ目は「自分の美学を持つ事、自分の生きざま見つめ自分自身を知る事が大事。」

6. 父親は母親に安心感を与え、心の支えとならねばならない。

母親の苦勞を認めてあげる事が必要である。

7. 最後に、本日聞いた事は知識としてではなくて意識にしていって欲しい。

自分の意識に植え付ける事が大事である。その為には「行動」する事が必要。

「おはよう」の挨拶をするなどの些細な事でも良いので是非実行して欲しい。(今野洋一)

発行 スコール・マスターズ

info@schole-masters.org

◆◆ マスターズ・ホームページ

http://schole-masters.org

◆◆ マスターズ『自己開発ノート』

http://schole-masters.org/jikokaihatsu/